



免責事項

本プレゼンテーション資料には、株式会社堀場製作所の業績、戦略、事業計画などに関する将来的予測を示す記述および資料が記載されております。

これらの将来的予測に関する記述および資料は過去の事実ではなく、発表時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した予測です。

また経済動向、他社との競争状況、為替レートなどの潜在的リスクや不確実な要因も含まれています。その為、実際の業績、事業展開または財務状況は今後の経済動向、業界における競争、市場の需要、為替レート、その他の経済・社会・政治情勢などの様々な要因により、記述されている将来予測とは大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おきください。

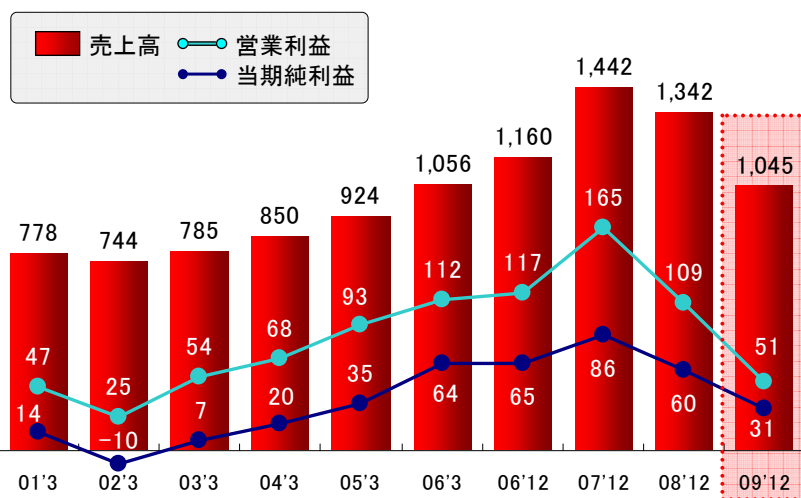
説明内容

- ・ 2009年12月期 決算概要
- ・ 2010年12月期 業績計画
- ・ セグメント別詳細説明
- ・ 2010年12月期 上期業績計画
- ・ 経営上の取組事項

全社

連結売上高・営業利益・当期純利益推移

(単位: 億円)



2009年12月期 連結決算概要

第3四半期末から回復基調も、全体として減収減益

P/L

- ・自動車/分析/半導体で需要大幅減、医用好調で採算性も改善
- ・為替影響(対日本円)により、売上高▲93億円、営業利益▲11億円
- ・たな卸資産評価減、減損損失などにより特別損益尻悪化▲8億円

売上高 ▲22%、営業利益 ▲53%、当期純利益 ▲48%

B/S

- ・売上債権減少▲28億円、固定資産増加+9億円
- ・借入金減少▲26億円

バランスシートのスリム化推進 総資産▲36億円

C/F

- ・運転資本圧縮などで営業CF +137億円
- ・設備投資などにより投資CF ▲41億円
- ・借入金返済・配当支払などで財務CF ▲47億円

手元流動性の確保で、金融危機に対応 現預金 +49億円

2009年12月期 通期連結実績

(単位: 億円)

	2008年	2009年		
	実績	実績	前年比	前回予想
売上高	1,342	1,045	▲297 (▲22.1%)	1,040
営業利益	109	51	▲58 (▲53.1%)	28
営業利益率	8.2%	4.9%	▲3.3P	2.7%
経常利益	100	52	▲47 (▲47.5%)	26
当期純利益	60	31	▲28 (▲47.6%)	14
ROE	7.7%	4.0%	▲3.7P	1.8%

2009年12月期 セグメント別通期実績

(単位: 億円)

【前年比】

	売上高			営業利益		
	2008年 実績	2009年 実績	前年比	2008年 実績	2009年 実績	前年比
自動車	542	371	▲31.4%	72	18	▲75.0%
分析	385	325	▲15.6%	18	15	▲16.8%
医用	247	223	▲9.6%	6	19	+182.1%
半導体	167	124	▲25.5%	12	▲0	-
合計	1,342	1,045	▲22.1%	109	51	▲53.1%

2009年12月期 セグメント別通期実績

(単位: 億円)

【前回予想比】

	売上高	営業利益	要因分析
自動車	▲8	+3	DTS事業にて10億円の売上未達 期末での排ガス事業の採算改善
分析	+0	+9	ホリバ・ジョバンイボン社の収益性向上
医用	▲1	+4	利益率の高い新製品貢献 米国・中国事業の収益性改善
半導体	+14	+7	シリコン半導体向け回復・LED向け拡大 販売価格下落で利益率回復は緩やか
合計	+5	+23	

業績回復へ向けた施策

前年比30億円の経費削減を年初に計画

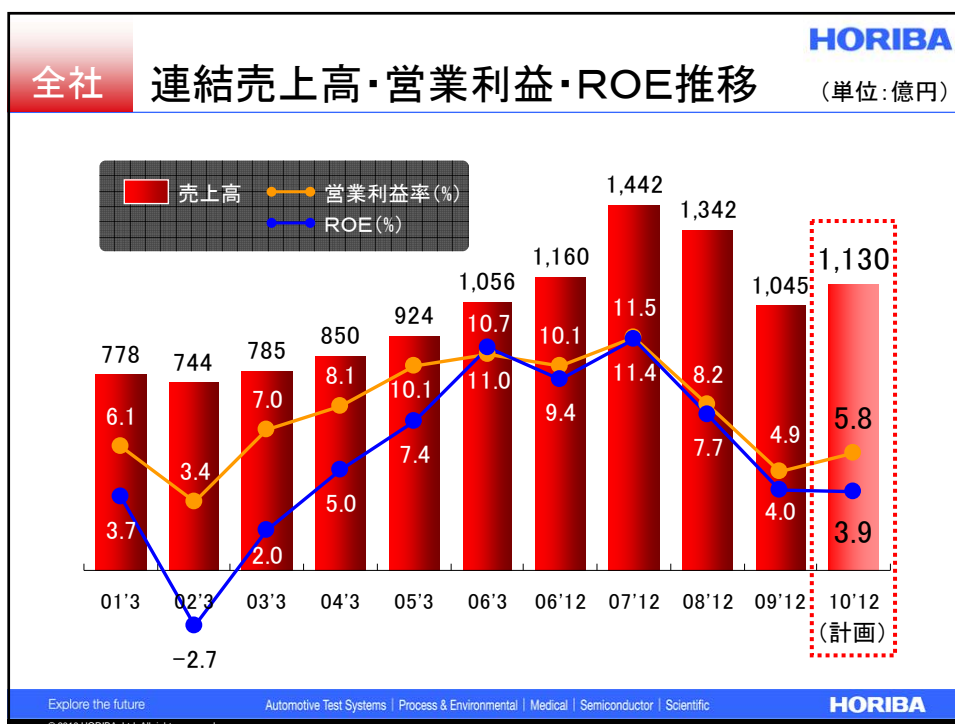
- 削減実績(前年比)
 - 1Q:14億円 → 上期:20億円 → 3Q(累計):37億円 → **通期:40億円**
 - 通期削減実績内訳(□は年初計画値)
 - ◇人件費:**17億円**[10億円]
 - ◇その他、経費:**23億円**[20億円、うち国内14億円、海外6億円]

2010年の計画

- 2009年比で25億円経費増加
 - ◇人件費+10億円
 - ◇その他経費+15億円(売上増に伴う販売費増加)
 - ➔ **支出引き締めは維持**
- 研究開発費 98億円 → 100億円(+2億円)
 - ➔ **新製品投入へ向けた積極投資継続**

説明内容

- ・ 2009年12月期 決算概要
- ・ 2010年12月期 業績計画
- ・ セグメント別詳細説明
- ・ 2010年12月期 上期業績計画
- ・ 経営上の取組事項



HORIBA

2010年12月期 連結業績通期計画 (単位: 億円)

	2008年	2009年	2010年	
	実績	実績	計画	前年比増減
売上高	1,342	1,045	1,130	+ 84 (+ 8.1%)
営業利益	109	51	65	+ 13 (+ 26.4%)
営業利益率	8.2%	4.9%	5.8%	+ 0.9P
経常利益	100	52	55	+ 2 (+ 4.3%)
当期純利益	60	31	32	+ 0 (+ 1.2%)
ROE	7.7%	4.0%	3.9%	▲0.1P
為替レート	2010年想定レート US\$ = 90円 EUR = 130円 2009年度実績レート US\$ = 93.65円 EUR = 130.35円 円高の影響 → 1円につき、ドル8,100万円、ユーロ1,400万円 営業減益			

Explore the future | Automotive Test Systems | Process & Environmental | Medical | Semiconductor | Scientific

HORIBA

© 2010 HORIBA, Ltd. All rights reserved.

2010年12月期 セグメント別業績計画

(単位:億円)

【前年比】

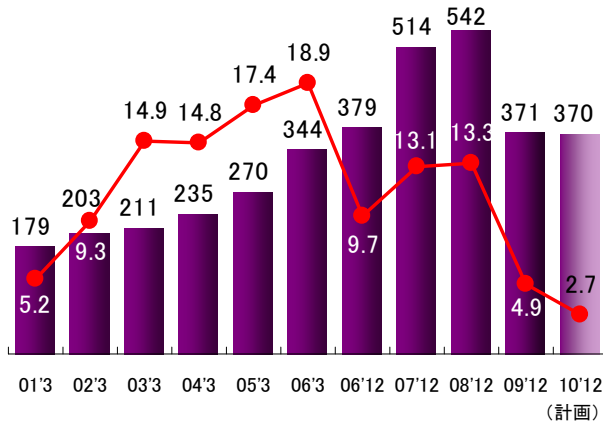
	売上高			営業利益		
	2009年 実績	2010年 計画	前年比	2009年 実績	2010年 計画	前年比
自動車	371	370	▲0.5%	18	10	▲44.8%
分析	325	350	+7.6%	15	15	▲1.3%
医用	223	240	+7.4%	19	21	+9.8%
半導体	124	170	+36.2%	▲0	19	-
合計	1,045	1,130	+8.1%	51	65	+26.4%

説明内容

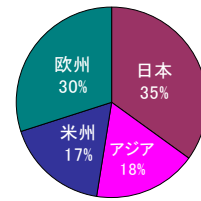
- ・ 2009年12月期 決算概要
- ・ 2010年12月期 業績計画
- ・ **セグメント別詳細説明**
- ・ 2010年12月期 上期業績計画
- ・ 経営上の取組事項

自動車 連結セグメント別売上高・営業利益率推移 (単位:億円)

■ 売上高 ● 営業利益率(%)



	2008年実績	2009年実績	2010年計画
売上高	542	371	370
前年比	+5.4%	▲31.4%	▲0.5%
営業利益	72	18	10
前年比	+7.0%	▲75.0%	▲44.8%



地域別売上比率 (2009年実績)

自動車 実績および業績予想の背景

2009年実績	前年比	売上高	▲31.4%	営業利益	▲75.0%
排ガス計測事業 (+) 1Q : 受注残案件の出荷堅調、利益確保 (-) 2Q以降 : 国内・欧州市場の冷え込みで需要急減 DTS事業 (+) 日本国内向け販売堅調(びわこ工場稼働) (-) 欧州・米州での需要減による売上減で、赤字拡大					
2010年計画	トレンド	売上高	→	営業利益	→
排ガス計測事業 (+) 自動車メーカーの損益回復 → 年後半に研究開発投資の回復期待 (-) 円高水準での推移 → 販売価格下落で採算悪化 DTS事業 売上 2009年実績:85億円、2010年見込:115億円 (+) アジア市場での販売増見込む					

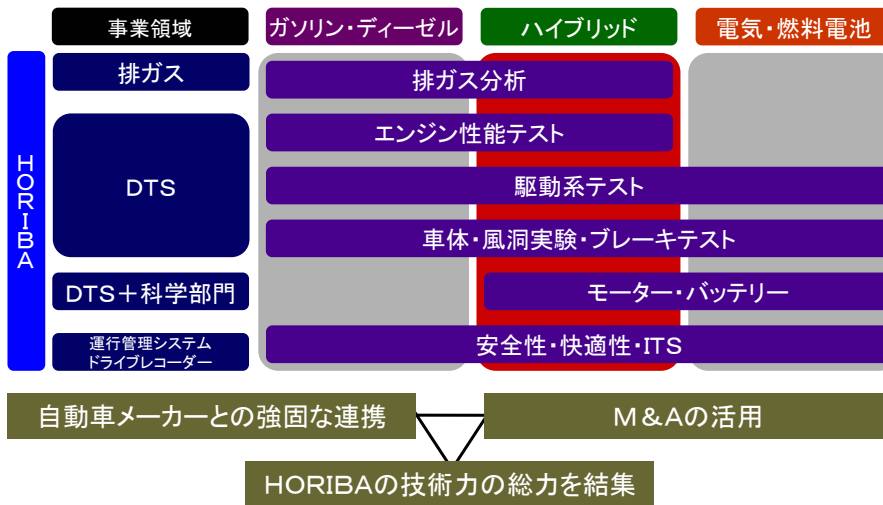
為替影響 (-) 排ガス製品は日本生産のため、円高は輸出採算悪化

自動車 地域別トピックス・施策

<p>日本</p> <p>1. ハイブリッド車開発加速 → 試験工数増で計測装置需要拡大</p> <p>2. 販売・生産は回復基調だが、開発投資の回復は遅れる</p>	<p>欧州</p> <p>1. 自動車メーカーの投資慎重 → 排ガス計需要減少</p> <p>2. DTS事業のテコ入れ → 黒字化は2011年へ</p>
<p>米州</p> <p>1. Big3投資再開に向けた動向注視</p> <p>2. ハイブリッド車開発加速 → 米国メーカーでも積極投資期待</p> <p>3. 環境規制前倒し(2020年→2016年)</p>	<p>アジア</p> <p>中国/インド → 大学・官公庁向け需要増加 → ローカルメーカーへセールス拡大</p>

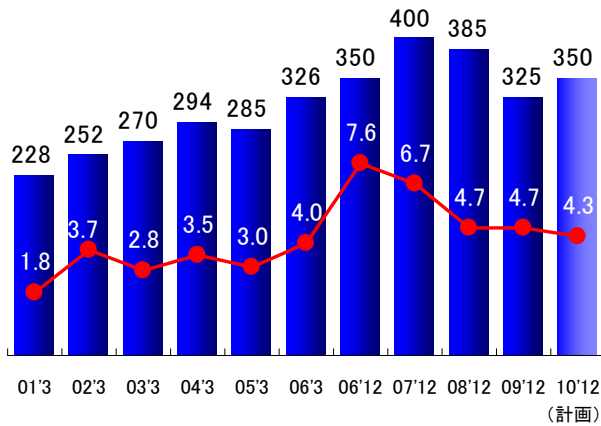
自動車 HORIBA自動車関連事業の展望

■ 自動車関連事業でのHORIBAの活躍フィールドは広がる

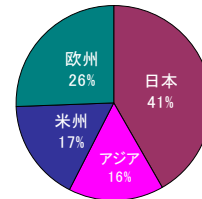


分析 連結セグメント別売上高・営業利益率推移 (単位: 億円)

■ 売上高 ● 営業利益率(%)



	2008年 実績	2009年 実績	2010年 計画
売上高	385	325	350
前年比	▲3.8%	▲15.6%	+7.6%
営業利益	18	15	15
前年比	▲31.6%	▲16.8%	▲1.3%



地域別売上比率 (2009年実績)

分析 実績および業績予想の背景

2009年実績	前年比	売上高	▲15.6%	営業利益	▲16.8%
科学 (+) 大学・研究所向けに製薬・パイオ・新素材分析装置の需要堅調 (-) 一般産業用は需要減少が顕著 環境 (-) 価格競争激化による販売価格下落で採算性悪化 (-) 円高による収益性悪化					
2010年計画	トレンド	売上高	→	営業利益	→
科学 (+) ホリバ・ジョバンイボン社製品は、ユーロ安でコストメリット増 (-) 各国政府補助金等の減少、大学向け案件減少懸念 環境 (-) 各国政府関連投資等の減少による影響					

為替影響 (+) 科学の約半分はフランス生産 (-) 環境は大半が日本生産

分析 事業展開

科学分野

顧客・市場別の状況

- **先端市場向け**
 - ・ 学術関連のサポート強化
→ 大学・政府予算、補助金案件の獲得
- ▲ **一般産業向け**
 - ・ 円高による海外向け製品の競争力低下
→ 堀場製作所製品の採算悪化
- **中国市場：堅調**
 - ・ ホリバ・ジョバンイボン社製品堅調
 - ・ 政府が先端技術への投資を開始
 - ・ 新規規制動向注視

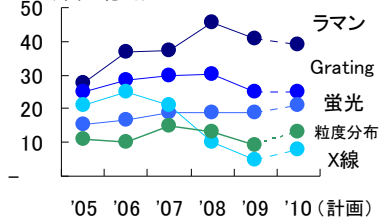
科学分野損益

(単位：億円)

	2008 実績	2009 実績	2010 計画
売上高	248	205	220
営業利益	8	12	12

主要製品の売上推移

(単位：億円)



分析 事業展開

環境分野

国内市場

- **景気減速による単価下落**
→ 出荷台数は横ばいも収益性悪化
- **補正予算等で大気汚染分析装置など案件増**
→ 販売価格下落で売上額は伸びず

海外市場

- **石油・石油化学プロセス計測へ進出**
→ 日本を含む先進国市場でも拡大
- **現地設計・開発推進**
→ 中国でのブランド定着をめざす
→ 科学事業の技術シーズ活用

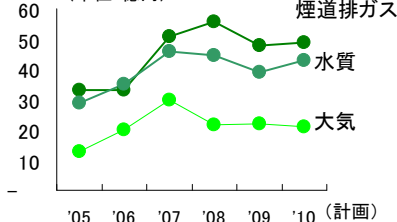
環境分野損益

(単位：億円)

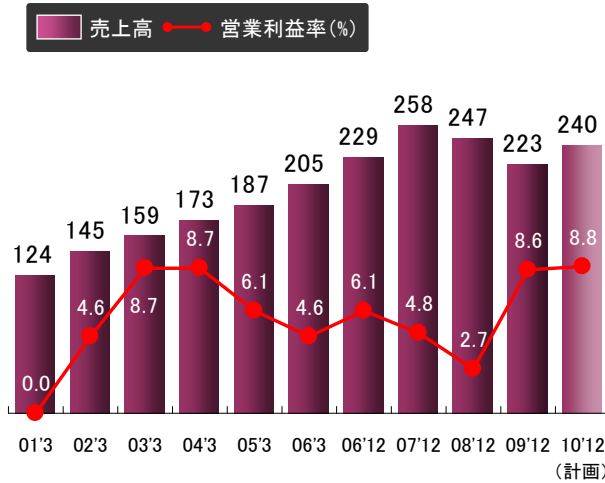
	2008 実績	2009 実績	2010 計画
売上高	137	120	130
営業利益	10	2	3

主要製品の売上推移

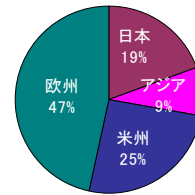
(単位：億円)



医用 連結セグメント別売上高・営業利益率推移 (単位:億円)



	2008年実績	2009年実績	2010年計画
売上高	247	223	240
前年比	▲4.3%	▲9.6%	+7.4%
営業利益	6	19	21
前年比	▲45.0%	+182.1%	+9.8%

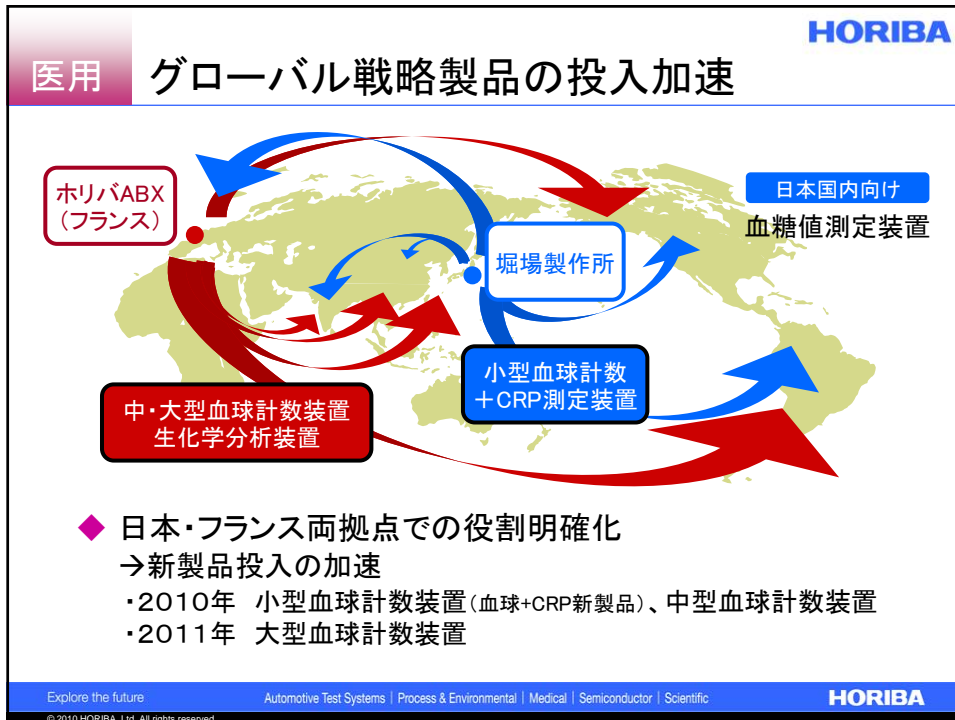
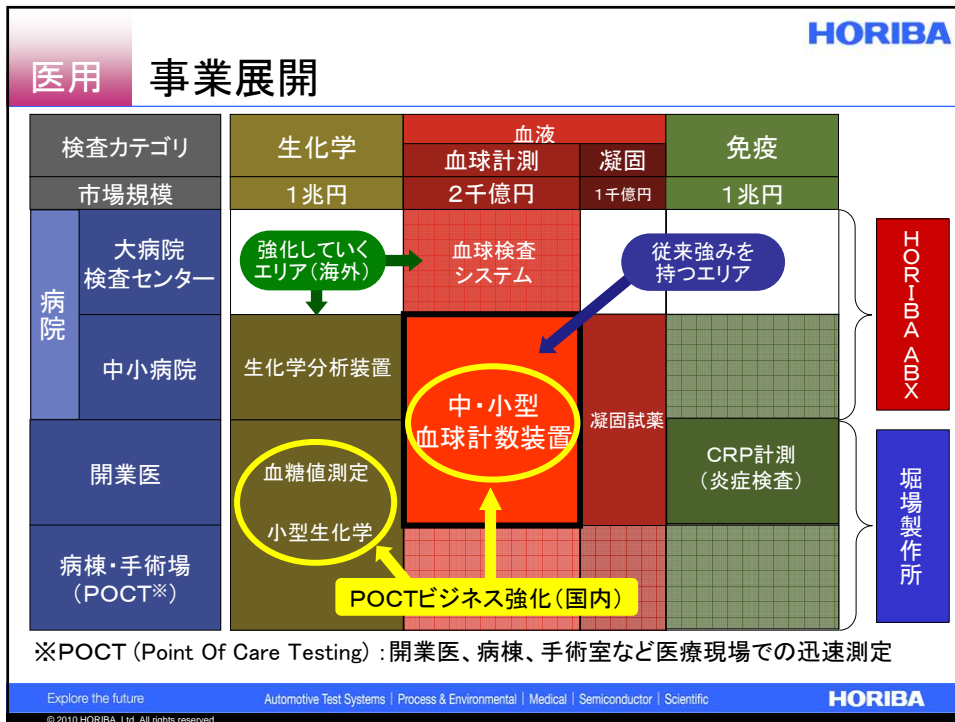


地域別売上比率 (2009年実績)

医用 実績および業績予想の背景

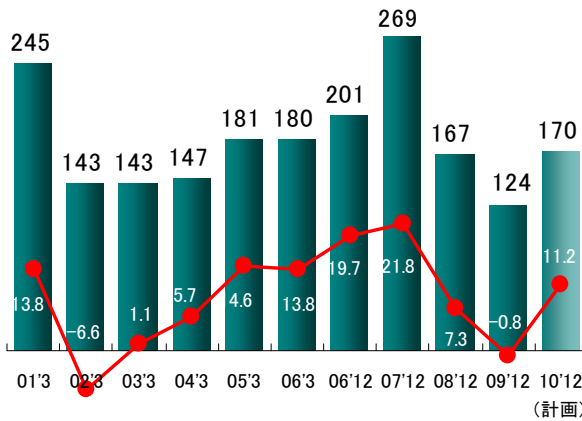
2009年実績	前年比	売上高	▲9.6%	営業利益	+182.1%
<ul style="list-style-type: none"> ⊕ 日本での「小型血球計数+CRP」装置好調維持 → 営業利益のうち、4割が国内 ⊕ 米国・中国での損益改善(ユーロ安、経費削減、試薬販売増) 					
2010年計画	トレンド	売上高	→	営業利益	→
<ul style="list-style-type: none"> ⊕ ユーロ安でホリパABX製品の競争力UP・利益率改善 ⊕ 製品設置台数増加による試薬販売高増加 ⊕ 診療報酬改定によるマイナス影響はなし ⊖ 円高水準での推移による売上高目減り(円換算値) 					

為替影響 ⊕ 製品の80%がフランス製 → ユーロ安はコスト面でメリット

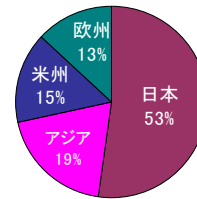


半導体 連結セグメント別売上高・営業利益率推移 (単位:億円)

売上高 営業利益率(%)



	2008年 実績	2009年 実績	2010年 計画
売上高	167	124	170
前年比	▲37.8%	▲25.5%	+36.2%
営業利益	12	▲0	19
前年比	▲79.2%	-	-

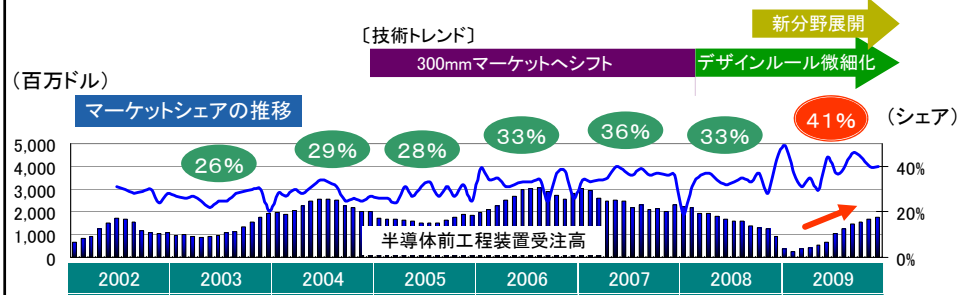


地域別売上比率 (2009年実績)

半導体 実績および業績予想の背景

2009年実績	前年比	売上高	▲25.5%	営業利益	-
マスフローコントローラ (+) LED向けに堅調に推移 (-) シリコン半導体製造装置向けは第3四半期まで低調 半導体・液晶プロセス用検査装置 (-) 半導体市場悪化で洗浄機用薬液モニタ販売大幅減					
2010年計画	トレンド	売上高	→	営業利益	→
マスフローコントローラ (+) LED向けは拡大予想 (+) 半導体・太陽電池製造装置市況回復 (-) 下期以降の先行き不透明 半導体・液晶プロセス用検査装置 (+) 在庫調整終了し、徐々に回復基調					
為替影響 (-) 製品の開発・生産は大半が日本、米国向けに利益圧迫					

半導体 マスフローコントローラ(MFC)の動向



2009年は、半導体の微細化プロセス用やLED用などで、シェアUP
(2006年 33% → 2007年 36% → 2008年 33% → 2009年41%)

- MFC業界再編で、米国向けシェア拡大のチャンス
- LED向けで拡大顕著

アジア市場での強みを生かして世界シェア50%超をめざす

出典: SEMI

半導体 MFC用途別売上予測

(単位: 億円)

■ アプリケーションの拡大

	2007年		2008年		2009年		2010年		今後の予想
	実績 売上高	実績 構成比	実績 売上高	実績 構成比	実績 売上高	実績 構成比	計画 売上高	計画 構成比	
シリコン半導体	138	71%	58	48%	54	55%	80	53%	↗
太陽電池	8	4%	16	13%	7	7%	10	7%	→
液晶	12	6%	12	10%	2	2%	5	3%	→
LED	0	0%	1	1%	10	10%	30	20%	↗
その他	37	19%	33	28%	26	26%	25	17%	→
計	195	100%	120	100%	99	100%	150	100%	↗

- シリコン半導体 微細化プロセス向け案件増加・2009年末から急回復
- 太陽電池 需要回復機運高まる、長期的には拡大
- 液晶 2010年は徐々に需要拡大
- LED 製造装置需要の拡大加速

半導体 分野別HORIBA製品対応度

■ 各アプリケーションと主要製品のマトリックス

アプリケーション	製品群	薬液濃度 モニタ	薄膜検査	異物検査	MFC	強み
シリコン半導体		●●●	●●	●●	●●●	微細化プロセス用でフルラインアップ
太陽電池		●	●●●	-	●●	結晶系から薄膜系までカバー 薄膜検査装置で市場拡大予想
液晶		●	●●●	●	●●	台湾メーカーを中心に高シェア
LED		-	-	-	●●●	欧州/日本で高シェア獲得

(「●」が多い製品・アプリケーションほど、ラインアップ充実・もしくは高シェア)

◆ バランスの良い製品展開

- マスフローコントローラと薬液モニタで高シェア
- シリコン・液晶で培った顧客ネットワークを太陽電池・LED市場へ
→ シリコンサイクルの影響を低減

説明内容

- ・ 2009年12月期 決算概要
- ・ 2010年12月期 業績計画
- ・ セグメント別詳細説明
- ・ 2010年12月期 上期業績計画
- ・ 経営上の取組事項

2010年【第1四半期・上期】連結業績計画 (単位:億円)

2009年	1Q	2Q	上期	下期	通期
売上高	254	235	490	555	1,045
営業利益	20	▲4	16	35	51
経常利益	18	▲1	17	35	52
当期純利益	9	0	10	21	31

2010年	1Q	2Q	上期	下期	通期
売上高	264	276	540	590	1,130
営業利益	9	13	22	43	65
経常利益	6	11	17	38	55
当期純利益	2	7	9	23	32

説明内容

- ・ 2009年12月期 決算概要
- ・ 2010年12月期 業績計画
- ・ セグメント別詳細説明
- ・ 2010年12月期 上期業績計画
- ・ 経営上の取組事項

「One Company 経営」の推進

HORIBA Group is One Company

HORIBAグループは、統一されたブランドの下、
ビジョン・戦略を共有し、One Companyとして、
グループの企業価値・利益最大化を追求する

< これまでの施策 >

- 社名変更・ブランドの統一
- マトリックス経営の導入
- 米国/欧州グループ会社再編
- シェアドサービス拡大(米国・日本)

ヨーロッパに開発センター新設

パリ近郊に研究開発センターを新設

- パリ近郊「サクレークラスタ」に、日本企業で初めて進出
 - ・光学分析企業の集積地形成を目的とする国家プロジェクト
 - ・ダノン社(食品)、EDF社(フランス電力公社)、タレス社(国防関連)等も進出
 - ・エコール・ポリテクニック(フランス高等技術学校)隣接
 - 産官学の交流により研究開発の促進をめざす

ヨーロッパにおけるホリバグループの中心拠点として活用

- ・2009年 パリで発表会見
- ・2011年 稼働予定
(順次、周辺の拠点を移転)



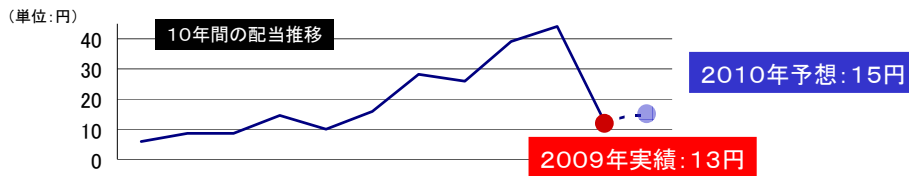
配当政策および今期の配当金について

配当政策

- 配当金 = 個別(単体)純利益 × 30%
※個別純利益にはグループ会社の前期利益からの配当が含まれる
- 残りは戦略的投資資金として内部留保(設備投資・M&A等)

配当額

- 業績悪化に加え、前期減益でグループ会社からの配当金減少
→ 2009年12月期配当 13円(中間 6円、期末 7円)
→ 2010年12月期配当予想 15円(中間 6円、期末 9円)



Explore the future

Automotive Test Systems | Process & Environmental | Medical | Semiconductor | Scientific

HORIBA

© 2010 HORIBA, Ltd. All rights reserved.

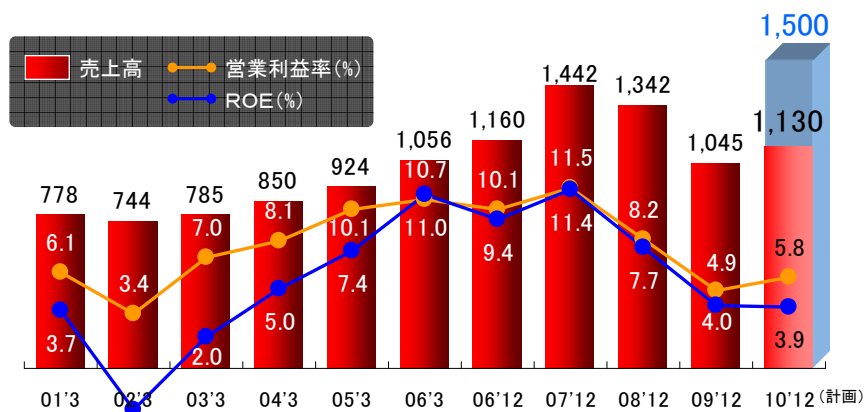
中長期経営計画

(単位:億円)

中長期経営計画(2010年目標)

- ・売上高 1,500億円
- ・営業利益 10%以上
- ・ROE 11%以上

次期中長期経営計画(2011-2015年)



Explore the future

Automotive Test Systems | Process & Environmental | Medical | Semiconductor | Scientific

HORIBA

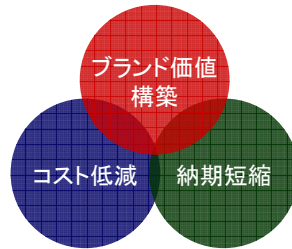
© 2010 HORIBA, Ltd. All rights reserved.

HORIBAグループ経営方針

2010年度

“ First Class Quality ”

～ 真の高品質企業への挑戦 ～



品質改善への投資拡大で、ブランド価値・コスト面・納期面でシナジー効果期待

ご清聴ありがとうございました



MLMAP
Mid-Long Term Management Plan

2006-2010